

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.68

消費者啓発講座は 動画配信かLIVE配信か



NET情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原嘉一（しのはら・かいち）

このところコロナ禍で消費者啓発講座や

ネットトラブル防止講座がリモート講座になることが増えてきた。昨年は、まだまだ対応が追いつかなくて延期される会場もあった。しかし、ネットトラブルはコロナに関係なく多くの世代で増えてしまったこともあり、なんとしても啓発は続けたいと、リモート講座も増えている。子ども向けの講座は、リモートではなかなか伝わらないとして、あくまでも対面講座にこだわる学校も多い。学校現場はタブレットの導入で、今まで以上にネットトラブルが増え、先生方の負担も増えているため、啓発講座は中止の選択ができないのが現状なのだ。

特に巣ごもり需要もあり、通販サイトや電子マネーでのトラブルは増えている。知らない人からの電子マネーでのパパ活、巻きタバコ用品の通販、薬物に限りなく近い商品の販売等、興味の無い人は気づかない売買がネットを通じて横行している。子どもたちは検索履歴から趣味趣向が推測され、危険な商材を知ることとなるため、なかなか一般の大人には遠い世界なのだが、せめて

保護者世代には伝えたいところだ。

しかし、コロナ対策として保護者を学校に呼ぶことができず、この現状はなかなか保護者へは伝わらない。そこで動画で撮影したデータを配信したいと希望される場合がある。録画配信してほしいという意見は保護者からの要望でもあり、仕事が休みつらく、動画にして配信してもらえると、啓発もでき、保護者も空き時間に見ることができるといふことなのだ。とはいえ、相手の見えない動画配信は意図が伝わりにくく、誤解を招きやすい。

そこで一般的になった録画配信について、一度立ち止まって検討していただきたい。YouTubeや動画サイトが一般化したことで、いつでも、どこでも見たい動画が見られるようになったが、何でもかんでも動画配信してよいものだろうか。

リモート授業やリモートワークが増え、ZoomやMeetアプリを使用した配信が一般化した。このタイミングでGIGAスクール構想のタブレット導入が加速したのだが、当初はリモートを目的とした導入で

はなかったはずだ。参観日や運動会が配信になった学校もあるが、LIVE配信であればリアルタイムで視聴しているのだが、動画撮影して配信することは全く違うのだ。いつでも視聴できる利便性はあるが、学校行事はリアルタイムでないといけない。親が仕事の手を止め、子どもに時間を割いて互いに共感することが、このデジタル時代に何より必要なことなのだ。「忙しいお母さんが、僕のために仕事を休んで同じ時間を共有してくれた」ということが、親子関係の大切なところとなる。いつでも見られる動画は便利ではあるが、果たしてそれは子育てにプラスなのだろうか。

学校行事等の録画配信は、子どもたちや先生方の肖像権のトラブルもある。学校としては、子どもの様子を多くの保護者に見てもらいたいとの思いがあるのだが、1カ月ほど公開してどうぞご覧くださいという状況だと、動画の一部を撮影コピーして再投稿されてしまうリスクがある。パスワードで管理しているつもりでも、保護者が身内に教えてしまう事例も出ている。限られた人への配信のつもりが、想定外の人の目に触れることになりかねない。

コロナ禍が続く限り、リモートや配信は避けては通れないが、多くの人の目に晒されることを嫌がる子どももたくさんいる。本来伝えようとしている部分が伝わらず、思うような結果が出せない。

消費者啓発講座や、トラブル防止講座はあくまで対面にこだわりたいが、コロナ禍の今、利便性より不便なライブ配信にこだわり、消費者の意識を高めることを目指したい。